



御堂筋 ものかたり

薩を信じて自分の身を預ける姿勢が、おのずとよい発展を生むのである。哲郎氏の笑顔に迎えられる。「25代住職とはよく続いておりますね」「な

えと御利益に触れたいと思ひ、山門をくぐった。現本堂は文化5(180寺で、この辺では最も古

“願い”をかなえる「なで仏」も

80年に建立されたので、ちょうど今年で2000年になる。3階建ての庫裏を御堂筋を拡張する時に新築していたので、連良く戦火から免れた。築200年の木造建築がそのまま残ったという。

境内の山門横に十一面

地下鉄・心齋橋駅から難波に向かって歩いていくと、ビルに挟まれていくと、ビルに挟まれていくと、ビルに挟まれていくと、壁のお城のような建物を左手に見る。その南側を左手に取ると、真言宗御室派準別格本山、七宝山大福院三津寺の山門があった。「ここが三津寺筋か」とまじまじと見まわして、ひとりのうなずいて

普薩(秘仏)、開山は行基菩薩、創建は天平16(744)年。観音菩薩は我が心に合わせて正しく導いて救って下さいます(抜粋)。

昔、サラリーマン時代にキタからミナミに飲み歩いた時、この三津寺筋入り口でよくタクシーを降りたが、お寺の存在は覚えていない。しかし三津寺が非常に古いお寺と聞いていた。閉ざされた顔はそれぞれ正面を向けて、ストレスもたまり



の扉を午前6時半には開かしていただいています。午後5時に閉門したあとは、山門横の扉に取り付けた窓からいつでも参拝できるようにしています。窓のすぐ前方に十一面観世音菩薩のレプリカがある。閉門と同時にその向きを180度回転させて、窓からの参拝者に向かって失礼のないようにしていますよ」

さらに住職の言葉が続く。「昼間の開門中でも本堂を開けていないので、拝殿前に(釈迦の弟子の1人である)『おびんずる様』を置き、参拝者に病気の回復、予防の祈りが出来るよう『なで仏』にしています」と、きめ細かい配慮をお聞きした。なかなか地味ではあるが、地元の方を大事にする住職のやさしさが伝わってきた。最後に再び本堂前に立つと、200年の伝統と入り母屋造りの気品ある本堂に心が和み、不思議に心が落ち着いた。